

アカデミック・アドバイジングとピア・サポートを
融合した学修支援に関するガイドライン

金沢大学 教学マネジメントセンター

2024年3月

■序章

0.1 取り組みの背景

2020年、金沢大学は文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択された。文部科学省の「知識集約型社会を支える人材育成事業」は、Society 5.0時代等に向け、全学横断的な改善の循環を生み出すシステム（全学的な教学マネジメントの確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化等）の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的としている。⁽¹⁾

金沢大学は、メニューI：文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム（広さと深さを両立する新しいタイプの教育プログラム）に採択され、レイトスペシャライゼーションプログラム、ダブル・メジャープログラム、分野融合の学位プログラム等、複数のディシプリンを理解・修得できる教育プログラム学修の高い質と密度を担保するための取組み、理解・修得した複数のディシプリンを、融合・統合する学びのプロセス（講義から卒業論文・研究等まで）を目指す。

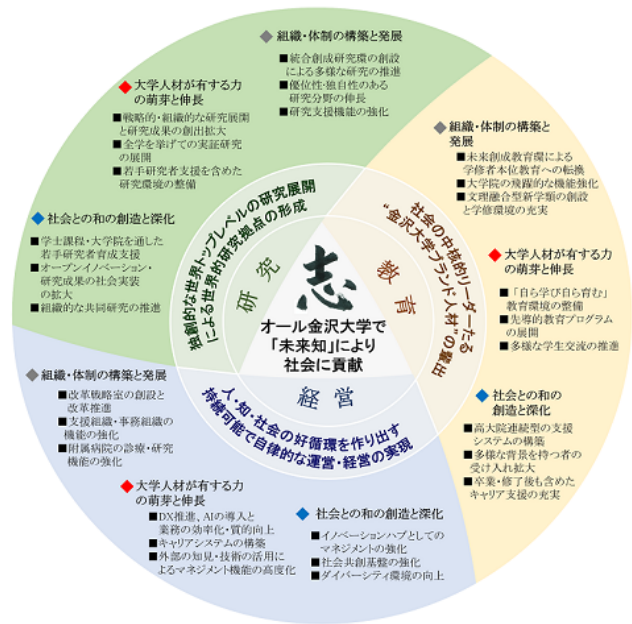
「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」では、1.「融合学域 先導学類」の設置、2.「先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)」の開講、3.リベラルアーツ教育の大幅拡充とSTEAM教育の必修化、4.教学マネジメントセンターの設置に取り組んでいる。

0.2 大学の指針との係わり

2022年4月1日付けで就任した和田隆志 新学長のもと、「金沢大学未来ビジョン『志』」⁽²⁾が策定された。研究、教育、経営それぞれのあるべき姿を掲げ、それらのビジョンに向け、“いま”金沢大学が何を為すべきかというミッションと、“いま”金沢大学が何を行うのかという個々のアクションプランが示されている。教育分野のなかで、『大学人材が有する力の萌芽と伸長』のミッション①「自ら学び・自ら育む」教育環境の整備／「教育-2-①-2 デジタルコンテンツを活用したアカデミック・アドバイジングとピア・サポートによる近未来型学修支援の構築」が個別施策として設定され、2023年度の目標では、アカデミック・アドバイジングとピア・サポートによる学修支援機会の増加などが設定されている。

¹ 知識集約型社会を支える人材育成事業 事業説明

² 改革戦略室「金沢大学未来ビジョン 志」



金沢大学未来ビジョン『志』

0.3 教学マネジメントセンターとの関わり

昨今、大学には学修者本位の教育を推進する必要性が指摘されており、学生を自律的な学修者に導くための教育改善・改革が求められている。この社会的要請に対し、金沢大学では、令和2年度に策定された「YAMAZAKI プラン 2020」において、ポストコロナを見据えた遠隔教育の拡充を軸とする”育み支える教育”への質的転換³⁾を掲げ、急速に変化する社会に対応できる人材育成を目的とする教育改革に取り組んでおり、教学マネジメントセンターの役割は、(1) 本学全体、学域・研究科等における学位プログラム及び授業科目レベルでの内部質保証の仕組みを確立すること、(2) 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組むこと、(3) 教育方法、教育システム及び教育支援等の高等教育に係る調査研究・開発を行うことです。(中略) 本学の教育の質の保証と向上、並びに”学生が自ら育む環境の構築”を目指している。⁽³⁾

学生の学修を支援する「対象」から、学修の「主体」にパラダイムシフトに資する学修者本位の教育の実現を目指している。この取り組みは当センターだけではなく、全学的な体制を整え、教職学の連携によって実現を図る。

³⁾ 片岡邦重「センター長メッセージ」金沢大学 教学マネジメントセンター

■第1章 既存の取り組みとの整理

1.1 金沢大学の既存の取り組み

金沢大学では、以前から年2回の面談を行うアドバイザー教員が全学で導入されているほか、附属図書館ではラーニング・アドバイザー（LA）及び留学生ラーニング・コンシェルジュ（LeCIS）制度により、以下の時間割で本学学生の学修支援を行っている。また、国際基幹教育院では、レイトスペシャライゼーションの学生を対象とした、アカデミック・アドバイザー（AA）教員がサポートしている。さらに、大学院生・学生が教育・学修支援を担うクラス・ラーニング・アドバイザー（CLA）やティーチング・アシスタント（TA）のほか、スーパーグローバル大学創成支援事業における取り組みの一つで、優秀な博士後期課程・博士課程の大学院生が、より高度な講義補助を担当することにより自身の教育能力を向上させ、大学院課程修了後にアカデミアで教育・研究者として活躍できる基礎力を涵養することを目的とした高度ティーチング・アシスタント（高度TA）など、重層的な取り組みを行っており、従来からCLAと高度TAは教学マネジメントセンターでも一部業務を担っている。⁽⁴⁾

1.2 知識集約型社会を支える人材育成事業における取り組み

既存の取り組みに加えて、学修者本位の教育の実現に向け、本事業取組をエンジンとして、教員・職員・学生が協働した「教職学協働」の仕組みを取り入れ、全学的な教学マネジメント体制に波及させる。具体的には、KU-STEAM 学生スタッフを本事業に参画させながら、先導 STEAM 人材育成プログラム（KU-STEAM）における授業サポーターとしてピア・サポート活動に従事させ、受講者が「自ら学び、自ら育む」自律的学修者として成長する支援を行っている。教員によるアカデミック・アドバイジングと学生同士によるピア・サポートを融合した学修支援モデルを確立し、全学的な教学マネジメント体制を強化している。⁽⁵⁾

KU-STEAM では、アカデミック・アドバイザー（特任助教）による履修・指導アドバイジングによるオーダーメイド型の履修指導を主題とし、学生と教員の密な対話活動は大きなウェートを占めており、文理融合教育、異分野協働により、多様な知を得て「融合した専門知」を涵養することがプログラムの目的ではあるが、何より自身の学類専門教育がおろそ

⁴ 金沢大学「令和元年度高度ティーチング・アシスタント研修会を開催」

⁵ 金沢大学「知識集約型社会を支える人材育成事業（KU-DP）アニュアルレポート2022」

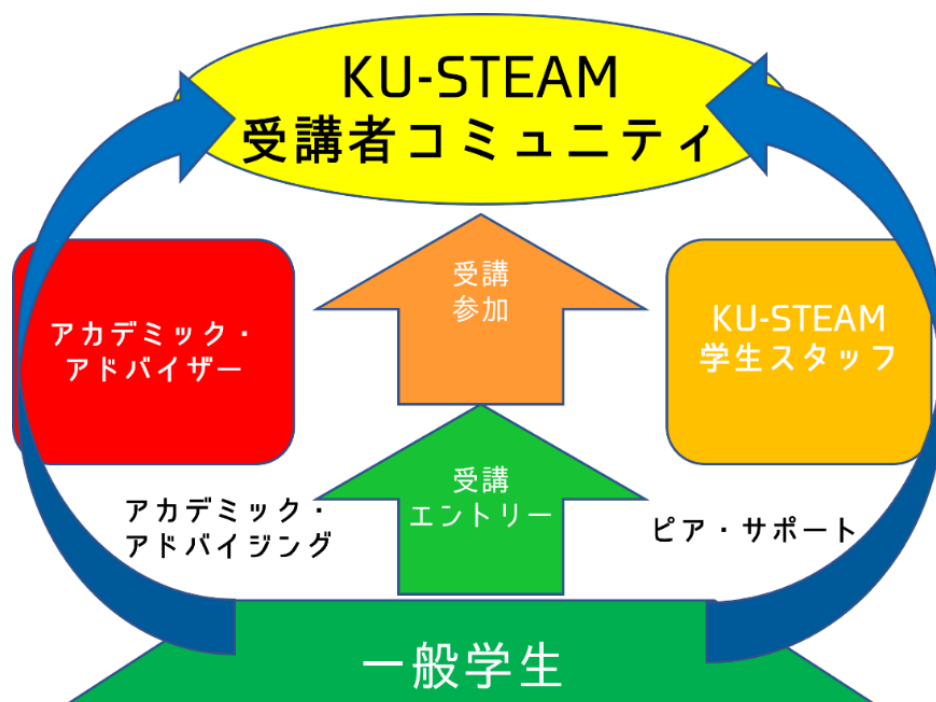
かになってはいけない。ポートフォリオ機能の改修により、学類教員、アドバイザー、学生が、履修状況やプログラムの進捗度を一目で把握し、3者で共有する体制を構築して、プログラム受講者と KU-STEAM 学生スタッフとの対話の機会を積極的に設けながら、教員・学生が共に学びつつ事業を進めている。

■第2章 主な機能と活動内容

2.1 アカデミック・アドバイジングとピア・サポートを融合した学修支援の概念図

アカデミック・アドバイジングとピア・サポートを融合した学修支援とは、アカデミック・アドバイザーを務める教員を中心に、学生スタッフが連携して学びの場づくりを行う、学生と教員の協働による相互補完的な学修支援である。

先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) におけるアカデミック・アドバイジングを中心とした学修支援の枠組は、(1) 先導 STEAM 人材育成プログラムの履修ガイド、履修モデルの提示など (広報活動を含む)、(2) 正課及び正課外での学びの機会ガイドや成長の促進など (自律的学修支援)、(3) 学修者同士がつながる連鎖とコミュニティづくりなど (コミュニティ創出支援) であり、2022 年度のアカデミック・アドバイザー面談数の数値目標は、金沢大学に在籍する学士課程学生 (学士課程に在学する留学生を含む) を対象に、令和4年度の目標数値が130回に対して、666回と大きく上回る面談回数を実施している。その概要図は以下の図表のとおりである。⁶⁾



アカデミック・アドバイジングとピア・サポートを融合した学修支援の概念図

⁶⁾ 金沢大学「知識集約型社会を支える人材育成事業 (KU-DP) アニュアルレポート 2022」

アカデミック・アドバイジングを中心とした学修支援の枠組の3つに加え、2020年度からアップデートした内容について、具体的な活動とともに説明する。

2.2 アカデミック・アドバイジングとピア・サポートを融合した学修支援の機能

2.2.1 先導 STEAM 人材育成プログラムの履修ガイド、履修モデルの提示（広報活動を含む）

全学類の1年生、約1,800名の学生を対象に、正課科目「大学・社会生活論」や各学類のオリエンテーション⁽⁷⁾において、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の『学生向け KU-STEAM 紹介パンフレット⁽⁸⁾』をもとに説明を行っている。



学類オリエンテーションでPRしている様子



学生向け広報冊子の一部

また、大学が持つ様々な教育資源をとりまとめ、幅広い教養を身に着ける機会に加えて、学生一人ひとりの可能性を組み合わせ、既存の枠組みを超えて新たな価値を生み出す学びの土壌をつくるため「KU-STEAM ランチョンセミナー⁽⁹⁾」を開催している。

ゲストには、KU-STEAM の授業を担当する教員のほか、金沢大学に在籍する学士課程学

⁷ 金沢大学「「大学・社会生活論」等で先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の説明を行いました」

⁸ 金沢大学「令和4年度「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM)」紹介パンフレットを刊行」

⁹ 金沢大学「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) のランチョンセミナー&ガイダンスを開催」

生および博士前期課程学生で、所定の研修を受けた者（KU-STEAM 学生スタッフ）の協力のもと、令和 5 年度は合計 9 回開催し、累計 323 名が参加した⁽¹⁰⁾。融合学域や KU-STEAM の履修体験を学生・教職員向けに発表し、セミナー後には学生スタッフと協力し、履修説明や履修相談に対応する攻めの広報を行っている。



ランチョンセミナーの様子



セミナー後の履修相談の様子

【ポイント】

- ① 初年次の学生に対して、窓口で待機する受動的な相談対応ではなく、各学類のオリエンテーション等に赴いて、事業の趣旨やカリキュラムの特色を説明する主体的な相談対応を行う。
- ② 本事業の履修経験がある学生を招聘し、学修経験を聴くことができる機会を設ける。
- ③ 学生向けの広報冊子では、先輩学生による履修体験談のほか、体系的なカリキュラムをまとめたチラシ等も配布し、各自があとで見返せるように配布する。
- ④ アワードシステムや授業科目一覧を Web サイト等で示して、学生が履修登録を行いやすいようにサポートする。

<サポートケース I >

Q.KU-STEAM の履修に関する相談。

A.たとえば、人社系の学域に所属している学生が理工系の科目に関心を持って相談を受けることがある。事業パンフレットや授業の募集チラシ、WEB サイトや映像などを紹介して、学生の興味関心や課題意識などのヒアリングを丁寧に行って、KU-STEAM や他学域、各種特別プログラムのカリキュラム以外に、履修以外でキャリアに悩む場合もあるため、キャリア支援室などを紹介した。

¹⁰ 金沢大学「教学マネジメントセンター ニュースレター第 3 号」

＜サポートケースⅡ＞

Q, やってみたいことが明確でない, どんなことから始めたらよいのかわからないという相談。

A. 大学へ進学を考えた理由や背景をヒアリングしたうえで, 大学が提供する各種プログラムや相談先の部局等の候補を示し, KU-STEAM のプログラム導入科目では, 「やってみたい」を考える集中講義を実施することを案内した。

2.2.2 正課及び正課外での学びの機会ガイドや成長の促進（自律的学修支援）

正課（演習系科目）では, 過去の履修者が学生サポーターとして参画。KU-DP 事業のアドバイザーボードによる事前研修も行い, 履修者のプロジェクトの相談対応やグループファシリテーターとして参画している。

KU-STEAM のプログラム導入科目「融合先導知実践演習 A（ちょこっとマイプロジェクト）」では, 文理融合や分野融合による学びの価値を実感することを目的に, 学生自らが「学びの主体者」であることを認識することを強化しながら, 自分自身でテーマを発見し, 自らの力でプロジェクトを実践できることを目標としている。⁽¹¹⁾ 過年度の履修者を中心に, 学生サポーターとして授業に参画し, 過去に実施したプロジェクトの報告やアクションを通じた学びの言語化をロールモデルとして行っている。

学生サポーターを導入した効果として, 身近な学生の実践をインプットすることで履修者がエンパワメントされるとともに, 学生サポーターは教員と違っては評価には関与しないため, 履修生とフラットに交流ができる。また, 本授業では一人ひとりが異なるテーマに取り組むため, 一概にプロジェクトの指導ができない。かつ, 文理融合・分野横断の趣旨に沿って, 学域・学理や学年を分散させた普段少人数グループワークが中心であるため, 各グループの状態を適宜把握することが難しいが, 学生サポーターがいることで, 学生の個別相談に対応でき, 各グループの状況を適宜観察できることで, きめ細かなサポートが実現している。さらに, 過去の履修者という立場から, よりよいプログラムとなるよう, 授業の改善案も提案している。

学生スタッフが「融合先導知実践演習」にサポーターとして参画する場合, 「融合先導知実践演習」を受講した者で, 本事業のアドバイザーボードや外部講師による事前研修への参加し, 授業の事前打ち合わせへの参加を課している。

¹¹ 金沢大学「「融合先導知実践演習 A（ちょこっとマイプロジェクト）」【2単位】【共通教育・自由履修科目（Q4・集中講義）】」



学生スタッフを記載したチラシ裏面

学生スタッフが進行のサポートを行う様子

学生スタッフには、事前に授業内容に関する綿密な打ち合わせのほか、アドバイザリーボード⁽¹²⁾や外部講師の協力のもと研修を実施している。これまでFD・SDで、ピア・サポート入門ミニセミナー⁽¹³⁾を開催し、学生とともにピア・サポートを始めるために知っておきたい基礎的な知識・スキル・態度について学んだほか、ちょこっとマイプロジェクトの講師から、伴走型支援の方法やコミュニケーション、ファシリテーションに関する事前研修を開催している。



ピア・サポート入門ミニセミナーの様子



伴走型支援やコミュニケーション研修の様子

¹² 金沢大学「事業実施体制」

¹³ 金沢大学「ピア・サポート入門ミニセミナー「ピア・サポートを始めるために知っておくこととは」」

学生サポーターやちょっとマイプロジェクトを通じた経験をもとに、文理融合・分野横断の STEAM 教育推進の一環として、探究学習や STEAM 教育をキーワードに、高大接続ラウンドテーブル特別企画「探究・STEAM フェスタ 2023～高校生の探究心に火を灯す～⁽¹⁴⁾」を開催した。高校生と大学生・大学院学生が相互に学び合う場に、県内高校の 22 校から 63 名の高校生のほか本学の大学生・大学院学生を含む計 114 名が参加して交流を行った。大学での学びを社会に還元している。



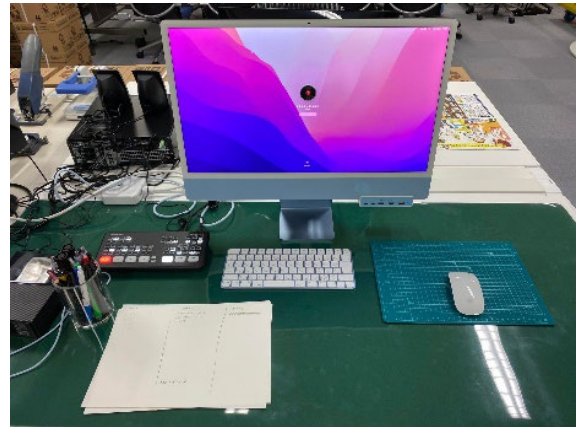
探究・STEAM フェスタ 2023 の様子

環境面では、学生がアクセスしやすい場所として、大学の中心エリアに、教学マネジメントセンターの共同スペース「STEAM ラボ」を設置。アカデミック・アドバイザーとして学生がプライバシーを確保しつつ閉鎖的ではなく、適語に居心地がよい設備を導入した。

学生スタッフ同士が意見交換や作業スペース、ワークショップのグッズを用意し、アクティブ・ラーニングにも対応できるようにしているほか、自習や学生スタッフのミーティングルールとしても機能している。また、STEAM 教育のため 3D プリンターやレーザーカッターで試作品の製作などできる機材を整えた。さらに、広報活動の一環で取り組む映像制作では、撮影機材のほか共用 PC や動画編集ソフトを複数用意して、学生が自ら学び、挑戦できる環境を整えている。



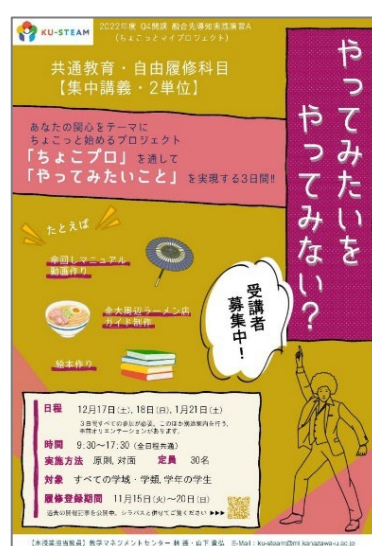
¹⁴ 金沢大学「高大接続ラウンドテーブル特別企画「探究・STEAM フェスタ 2023～高校生の探究心に火を灯す～」



STEAM ラボ内の様子

面談予約は学内ポータルメッセージや公開しているメールで随時対応を行うとともに、ランチョンセミナーや授業等の前後、昼休みや放課後以降の時間など、フレキシブルに対応するように心掛けている。

授業科目以外では、各種チラシ、事業パンフレット、ロゴデザイン、PR 動画まで、複数の学生によって制作した。教職員や学生からのフィードバックを、制作担当の学生に返し、制作物とスキルのブラッシュアップを行っている。さらに、学生スタッフによってイラストや動画制作等に関する自主勉強会をサポートしている。学生の中には、成果物をポートフォリオとして活用して、キャリアにも役立てている。



学生スタッフが制作したチラシの例

アカデミック・アドバイザー教員は、学生に対して幅広い選択肢を示すための情報収集を行う必要がある。そのためにも、学外のシンポジウムや学会等への参加、学内の研修会やコ

ンプライアンスや個人情報保護などの研修に参加して日々研鑽を積んでいるほか、全学 FD 研修会⁽¹⁵⁾において情報発信も行っている。



ピア・サポートをテーマにした全学 FD 研修会の登壇者

【ポイント】

- ① 正課科目の学生にはアカデミック・アドバイザーとピア・サポーターが両輪で学修をサポートしている。履修者は個別相談やフィードバックの機会が増えることで、課題発見・解決や挑戦・実践をスムーズに行えている。ピア・サポーターとして活動することで、俯瞰力、提案力、協働力が身につき、1つの学修で双方に学びが得られる。
- ② 正課外での学びを補助することを目的に、人的・知的リソースを活用して、学生スタッフの研修を行っている。
- ③ 学生が自ら育む環境を目指し、学生が滞在できる環境や設備を用意している。
- ④ 教員も学生へ提供するリソースの獲得のため、学内外との交流や情報収集が欠かせない。

<サポートケースⅢ>

Q.工学・機械を学ぶ学生が、映像制作の取り組みを行いたい。また、個人ではなくチームで取り組みたいという相談。

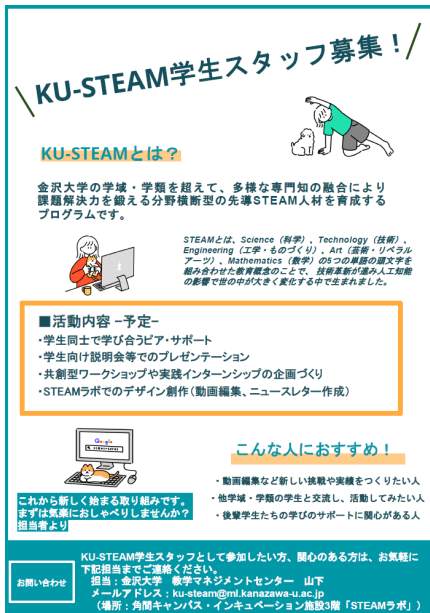
A.STEAM 教育を柱に KU-STEAM のプログラムに取り組み、Technology と Art を組み合わせた映像制作には、当初から取り組んできた。本相談をもとに、すでに学生スタッフで映像制作に参画していた人社・国際を学ぶ学生を紹介することで、工学・機械の学生から人社・国際の学生は編集や撮影のスキルを学び、一方の人社・国際の学生から工学・機械の学生は、構成やデザインのスキルを学ぶとともに、チームとして活動する経験を得た。その後、映像制作のチームは、人数や活動の幅を広げ、事業の PR 動画の制作のほか、実践インターンシップにおける動画制作のマニュアル作成で、学修をサポートしている。

¹⁵ 金沢大学「令和 4 年度第 2 回全学 FD 研修会『ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現』を開催」

2.2.3 学修者同士がつながる連鎖とコミュニティづくり（コミュニティ創出支援）

2021年度からスタートしたKU-STEAM学生スタッフには、現在すべての学域・14学類、学部1年から大学院学生まで、20名以上が参画している。⁽¹⁶⁾

今後も授業等を通じてピア・サポートやSTEAM教育等に関心のある学生を中心に協力を呼びかけていく。



KU-STEAM学生スタッフ募集！

KU-STEAMとは？

金沢大学の学域・学類を超えて、多様な専門知の融合により課題解決力を鍛える分野横断型の先進STEAM人材を育成するプログラムです。

STEAMとは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学・ものづくり）、Art（芸術・リベラルアーツ）、Mathematics（数学）の5つの英語の頭文字を組み合わせた教育概念のことで、各専攻が互いに工知能の影響で目の中が次々く変化する中で生まれました。

■活動内容-予定-

- ・学生同士で学び合うピア・サポート
- ・学生向け説明会等でのプレゼンテーション
- ・共創型ワークショップや実践インターンシップの企画づくり
- ・STEAMラボでのデザイン創作（動画編集、ニュースレター作成）

こんな人におすすめ！

- ・動画編集など新しい挑戦や実績をつくりたい人
- ・他学域・学類の学生と交流し、活動してみたい人
- ・後輩学生たちの学びのサポートに関心がある人

これから新しく始める取り組みです。まずは気軽に申しませんか？
担当者より

お問い合わせ

KU-STEAM学生スタッフとして参加したい方、関心のある方は、お気軽に下記担当までご連絡ください。
担当：金沢大学 教字マナセンター 山下
メールアドレス：ku-steam@jmi.kanazawa-u.ac.jp
(場所：角間キャンパス・インキュベーション施設3階「STEAMラボ」)

学生スタッフ募集チラシ



学生スタッフの紹介掲示場の一部



学生同士が自主的に企画した勉強会の様子

¹⁶ 金沢大学「学生スタッフ紹介」

【ポイント】

- ① 学修者同士で学域・学類や学年を超えて関わるのが、学修者も求めている。接点は、興味関心や課題など共通点を明らかにして、つながることをサポートすることが求められている。
- ② 学生スタッフやコミュニティに参画する多くは、既存のスタッフからの招待や授業の履修者が多く、コミュニティに参画しやすいハードルを下げる必要がある。
- ③ コミュニティを維持継続するために、学生スタッフ同士の交流会や勉強会を、学生主体で企画することをサポートすることが重要となる。
- ④ コミュニティに参画する手続き（学生スタッフの登録等）を、教職協働で整えている。

<サポートケースIV>

Q.レイトスペシャライゼーションで学類選択に関する相談について。

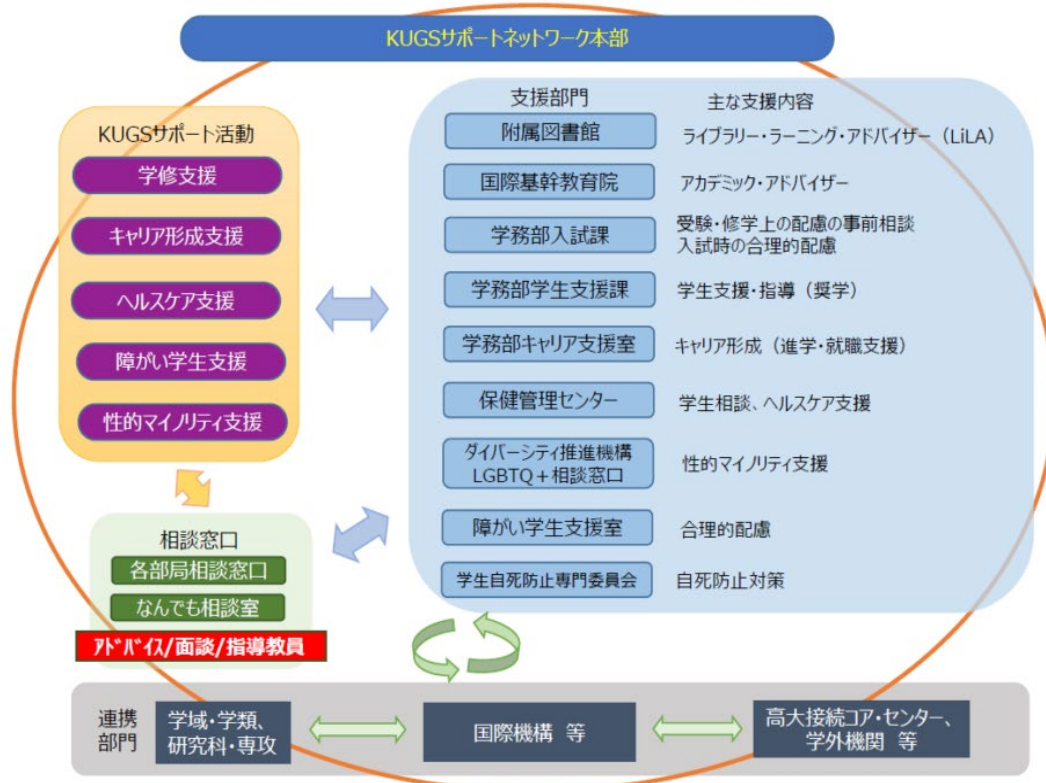
A.本学では平成30年度の国際基幹教育院総合教育部がレイトスペシャライゼーションの導入を行い、2年次で学類移行を行っている。全学域・学年を対象とした授業を通じて、幅広い学類・学年の学生に関わることから、学類移行に関する相談もある。アカデミック・アドバイザーとして、キャリアや興味関心をヒアリングして、学生自身が悩みや希望を言語化することをサポートするとともに、幅広い学域の学生スタッフが所属していることから、必要に応じて学類移行を経験した学生や特定の学類の学生の協力のもと、ピア・サポートを行っている。さらにランチョンセミナーでは、融合学域をはじめ全学域の学生をゲストに招くなど、学域を超えた交流や相談を行える機会をつくっている。

2.2.4 学生を支えるセーフティネット（他部署への紹介を含む）

既存の学生支援体制（KUGSサポートネットワーク等）と適宜連携をとりながら、組織的な学生サポートとなることを目指す。KUGSサポートネットワークは、本学バックアップポリシーに基づき、すべての学生が、いかなる差異、いかなる困難にもかかわらず、できる限り等しい条件の下で教育の果実に与ることができるよう、包括的な学生支援を行うことを目的としている。具体的には、以下の図のとおり、国際基幹教育院、保健管理センター、附属図書館、障がい学生支援室等の支援組織と、各部署（学域・学類・研究科等）、なんでも相談室等が連携し、学修支援、キャリア形成支援、ヘルスケア支援、障がい学生支援、性

的マイノリティ支援等の各種学生支援を行っている。⁽¹⁷⁾

KUGSサポートネットワーク 体制図 (学生支援体制)



【ポイント】

- ① 面談においてはどのような相談も受け入れるが、すべての課題に対応するのではなく、必要に応じて適切な支援部門や担当者を紹介する必要がある。
- ② 適切な支援部門や担当者と情報共有を行うため、日々の交流や情報共有および連携が欠かせない。

<サポートケースV>

Q.さまざまなプログラムを履修して、自分のキャリアについてどのように考えればよいかという相談。

A.これまでの経験や挑戦を認めたあと、自分の興味関心や強み・弱みについて自己の棚卸を行うことを提案する。さらに、キャリア支援室の相談員と制度を紹介し、進路相談や学びの棚卸しのサポートを行った。

¹⁷ 金沢大学「KUGS サポートネットワーク」

■第3章 終章

3.1 これまでの相談内容の分類

これまでの学修相談の内容は、正課・正課外にわたり、正課の中でも KU-STEAM プログラムに関することを中心に、既存の授業や課題について幅広い。正課外は学生の興味関心や直近の悩み事から背景を探っていくと、複数の課題が絡み合っていることが多い傾向がある。そのため、相談時間は1回あたり10分程度で終わるものから、なかには数時間や複数回に分けて実施するものもある。また、相談の人数も一人で来る場合や共通課題のグループで来ることもあり、内容によっては席を外してもらう場合や同時に面談を行うこともある。

2022年度の KU-STEAM アカデミック・アドバイジングの面談記録（261件）の相談内容を、大分類・中分類・小文理の3つの分類に分けて紹介する。

大分類	中分類	小分類	
正課	KU-STEAM	履修相談（科目内容）	
		履修相談（時間割作成）	
		キャリア	
			インターンシップ
			留学
			進路相談（学類移行・転学類）
			自己理解・自己分析
		授業課題	アンケート作成・分析
			インタビュー
			WEB サイト制作
			映像制作
			演習課題
	正課外	KU-STEAM	学生スタッフ希望
イベントの準備・振り返り			
プレゼンテーションの準備			
高大接続に関する打ち合わせ			

	キャリア	就職
		留学
		進学
		起業
		休学
	制作	チラシ・イラスト制作
		映像制作・撮影
		動画制作に係るマニュアル制作
		名刺作成
	サークル・部活	サークル立ち上げ
		チームマネジメント
		退部
	イベント	プロジェクトマネジメント
		産官学連携のイベント
		自主勉強会（イラスト，映像制作など）
	交流	学生スタッフに対する相談
		学生スタッフ同士の交流
	その他	外部講師等との相談
		ボランティア活動
		時間の使い方
		人間関係（家族・友人・恋人等）
		自習（読書）
		友人の付き添い

上記のほか、相談ではなく単純な報告（イベント実施，面談後のアクション，紹介のお礼など）があるが、今回の分類には含めないものとする。

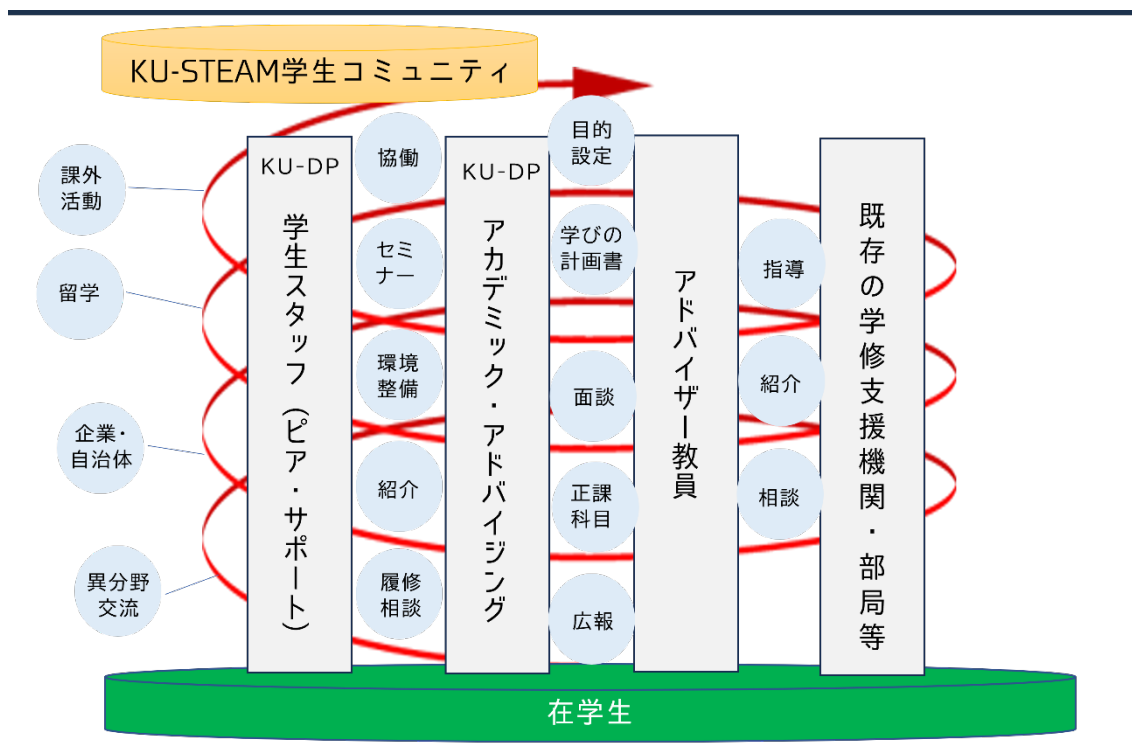
3.2 面談に係るフロー

- ①周知：オリエンテーション，授業，イベント等で活動や広報して理解してもらう
↓
- ②問い合わせ：ポータル，メール，授業，イベント等で相談の希望の依頼
↓希望の日時を複数提示して学生が選ぶ，または学生から希望の日時を聞く
- ③調整：面談時間や場所の設定
↓
- ④ヒアリング：面談を行う主訴，終わり時間，ゴールイメージを事前確認する
↓主訴やゴールイメージが明確ではない場合もあるため丁寧に行う
- ⑤アドバイス：主訴に対していくつかのプランや考え方を提示する
↓
- ⑥すり合わせ：いくつかのプランや考え方で一致・不一致の確認
↓不一致の場合，④ヒアリングに戻って再度検討を行う
- ⑦プランニング：課題の解決や次の挑戦に向けてスケジュールを確認する
↓必要に応じて次の面談日の設定，必要に応じて紹介先の連絡先等を提示する
- ⑧振り返り：日時や相談内容を記載する，よりよい対応に向けて振り返る
↓緊急事案や対処が困難な場合，関連団体等に相談や指示を仰ぐ
- ⑨報告：プライバシー等に配慮して適宜面談の状況を報告する

3.3 アカデミック・アドバイジングとピア・サポートを融合した学修支援の関わり

アカデミック・アドバイジング担当の特任教員を採用し，教員によるアカデミック・アドバイジングとともに，学生同士が支え合い，学び合うピア・サポートのコンセプトを融合させながら，教職学協働による学びの共同体（ラーニング・コミュニティ）を創設し，学修支援を補完している。本事業では，アカデミック・アドバイザーを務める教員を中心に，KU-STEAM 学生スタッフが連携する形で，ランチョンセミナーや STEAM ラボの場づくりを通して，新しい学修支援のモデルを目指している。

これまでも金沢大学では，アドバイザー教員や各部局による学修支援は行われてきたが，「知識集約型社会を支える人材育成事業」では，学生と教員による協働による相互補完的な学修支援を拡充し，学生が自ら育む環境の構築を目指して，所属を超えてコミュニティ化していることに特色がある。また，サポートする学生の対象や領域を広げ，病院の総合相談窓口のように学修に幅広い相談に対応しつつ，必要に応じて既存の部局や学外の団体等に紹介することで，学生の文理融合・分野を超えて自ら学ぶサポートを行っている。



以 上